



内閣府男女共同参画局長
名取はにわ氏と(かんこうにて)

討議資料

こころネットワーク だより

Vol.31 2006(平成18)年3月5日発行

！岩国市議会議員 姫野敦子の活動報告＋その他色々の情報紙！

昨年の秋の大水害から、早半年近く。まだ全てもと通りの暮らしになられていない方もあります。時々刻々様子の変化し、このたよりも何度も作り変え遅くなりました。今回は基地問題や住民投票などについて、お届けします。

あの日のこと...

住民投票が発議される前、何があったのか、新聞に載らない2月3日を振り返ってみます。

3日は会派代表者会議が開かれ、昨年6月定例会で全会一致の艦載機の反対決議を確認した。

議長に対して、全員協議会を勝手に中止したことを抗議し、早急に全員協議会を開催することを申し入れた。一方、4会派(憲政クラブ、新市政クラブ、公明党議員団、私たちの清風クラブ)では、拙速な住民投票は避けるべきという申入案について、各会派に持ち帰って協議した。

案文の表記がきついで、私たち清風クラブで検討ところが、その日はなぜか議長が、ずっと私たちの会派の控え室に。3時頃には、しびれを切らしたのか新たな案文がまた届く。これも自分たちの思いとは違い、時間をかけて作り替えていると、議会事務局職員までがやって来て、私たちの会派のパソコンを使って文書の入力をし始めた。

公明党議員団は県本部との協議を理由に、4会派での提出は辞退。そこで条件が変わったこともあり、**姫野と他議員と市長への申入れに反対。**

議長室へ会派全員で伝えに行くと、副議長や他2会派の議員がおられ、「ここまで待たせて出さないとはどういうことか?」「それは無い!」と各議員が大声で延々と発言され、意見の割れたまま、結局うちの浅井会長が三会派を代表して市長に行き手渡し、これが記事となる。この場でも議長は「住民投票を取り下げれば全員協議会を開くが」と、決めていない発言をする。

離脱した公明党議員団は、別にすでに提出されていた。困った清風クラブでは、急遽別なものを作り市長室に全員で持参した、と長い一日だった。この日、議員28名中、23名が提出したこととなり、その後態度保留や住民投票賛成者があっても、いまだに23名と言われて困っている。

これは以前、議員の在任特例が決まっていく過程と、とても似ている。(1)

住民投票へ行こう!

「(投票)当日には寝て居れ」...、市民にはわかるはずがない、国策だから住民投票は意味がない、投票率が悪ければ受入が進む、水害の2500万円を住民投票に投入した、白紙撤回と市長が言うのは基地自体の白紙撤回、国と交渉しないということだ...等、**事実ではない。情報がどんどん広まっています。**

市民へ正しい情報を流すのが議員の役目であるのにと、とても残念です。

「共産党＝住民投票と言って回れ!」と委員会にて、党所属の議員をひやかす議員もいます。

私自身、基地反対ではなく、国どうして決めたことなので仕方ないいつものようにあきらめずに、皆さんとともによく考えていきたいと考えています。

今まで、国策に協力してきた岩国市ですが、今回のような戦闘機が今の二倍の114機にもなる受入案や、自衛隊の岩国から厚木基地への移駐も含め、市民に判断の鍵(機会)が渡されたわけです。

岩波ブックレット「住民投票Q&A」・今井一 著には、『よく学び、よく考え、よく話し合って結論を出し、脅しや利益誘導に左右されることなく一票を投ずる。つまり、「知恵と勇気」の一票で投票箱がいっぱいになるか否かが、懸命な自治か衆愚政治かを決定づけることになります。』とあります。

全国や世界からも注目されているこの住民投票。賛成反対どちらでも、それぞれが誘い合わせて、投票に行きましょう。ボイコットは権利の放棄です。50%クリアできるかどうか、課題です。

投票日は3月12日(日)です。

期日前投票は3月6日(月)～11日(土)まで朝8時30分～20時、岩国市役所二階第一会議室にて、行えます。

自治体議員勉強会 in 沖縄に参加しました

1月24日～28日までの五日間、「自治体における平和施策」をテーマに、沖縄の基地問題や地方自治の実情を勉強しに出かけました。

那覇空港に着陸する前に随分長い間低空で飛び続け、たまたま窓の下を見ると三角形の戦闘機が横切るのが見えました。制空権はアメリカ側にあるのだなと感じた瞬間でした。

全国からの38名の議員さん達が宜野湾市の研修施設に集合。(このすぐ近くでは10年前の小学校4年生少女への暴行事件に抗議し、8万人の県民が集まったところでした。)

宜野湾市長、市職員、元県職員、地元議員さんをお迎えし、宜野湾市の実状や取り組みについてお話をうかがいました。



私の質問にも、丁寧に答えていただきました。

沖縄では補助金が国や県が9割、地元負担は一割。中には特例で10割負担してくれるものもあります。新しい建設物への補助率は高いものの、大規模の箱ものを作ってしまうと、維持管理が大変で行政を大きく圧迫するということでした。また、米軍基地が占有している地代は(地価の下落する今日でも)毎年上昇。最高で一人毎年20億円、総額で850億円支払われていると聞き、耳を疑いました。これらは皆、アメリカが基地として使用しているにも関わらず日本が肩代わりしています。不労所得(働かなくてもある収入)が多いため、まじめに働く意欲を失っていると指摘もありました。

宜野湾市の伊波市長は、普天間基地などの問題について「国が動かないのなら」と、日本語と英語を併記した市独自の資料を作成して渡米し、直接交渉。普天間の実状を上院議員などにも訴えると「アメリカ国内にも、こんなに劣悪な基地はない」と言われたそうでした。

市長の二度目の訪米の際は、議会が予算を否決したものの、市民によるカンパが訪米を促し、再度アメリカで実状を訴えられたと言うことでした。

「基地に依存する政治は終わらせたい」という市長の強い意気込みをうかがうとともに、岩国のこともとても心配して下さいました。姫野が岩国から参加しているということで、地元のメディアからも、つぎつぎと取材を受けました。

翌日は、まず嘉数高台公園へ。普天間基地滑走路がまっすぐよく見える場所。ここは日露戦争の二百三高地と同じくらいの大変な激戦地だったそうです。訪れたとき、悲しいほどにヒガン桜が美しく咲いていました。

次に、ヘリの墜落した沖縄国際大学へ。市職員さんによると事故直後より周辺は日本人や行政などすべて閉め出された異常な状況だったと。焦げた大学校舎も保存しておきたが、すべて解体されしまい、今では焼け焦げた木が一本だけ残っていました。

嘉手納基地が見渡せる「道の駅・かでな」へ移動し、元那覇市企画部長の真栄里さんに説明をしていただきました。

9.11のテロの時、嘉手納基地のまわりは自衛隊が数メートルおきに並んで守っていたと聞き、安保により日本は守られていると思っていただけに、参加した各議員も基地を見ながら驚いていました。

それにしても少し移動するたび、名前の違う基地が次々あり、それぞれ、福利厚生施設、居住、教育施設、車両など沢山あっていました。

戦後61年を経過し、30年くらい経ったモノなど老朽化が進み、海兵隊・空軍それぞれから施設の更新希望が多いということで、日本側が一つの施設を供用するよう言っても断られると。思いやり予算は、総額約2400億円と聞いていますが、これではいくらあっても足りないと感じました。

よその国に目を移すとフィリピンや韓国では、日本のような莫大な思いやり予算を出さないため基地を閉鎖。

それに比べて日本は莫大な予算を年々税金や国債などから投入。岩国とは、比べ物にならない施設の規模や広さに何ともやり切れない感じを受けました。

老朽化した普天間基地の移転建設予定地、辺野古(へのこキャンプ・シワブ)にも行きました。まず船で建設予定地を海から見ました。それは美しい白砂の地で、こんな美しい海を埋め立てて本当に基地を作らなくてはいけないなんて、信じられない気がしました。

8年に及ぶ反対運動や住民の活動についてお話を聴き、ジュゴンの生態を見られる滞在施設にすれば、世界からエコツアーとして利用できるのにと話されるのを聞き、岩国の沖合建設事業をつい重ねて考えました。

翌日は、「おもろまち」の軍用地跡地へ。以前の基地だったところが返還され、それは立派なモールや広い免税店が建ち並び、さながら外国にいるような感じでした。

次に南風陸軍病院跡へ。今では草むらの中の小高い山でしたが、分け入ってみると大きな壕があったそうでいくつかの碑がひっそりと当時を物語っていました。

沖縄南部に移動し、糸数アブチガマへ。大変多くの住民が軍とともに犠牲になった場所でした。

地元の避難場が、軍に明け渡しを命ぜられ、女学生による「ひめゆり部隊」が看護活動をしたところでした。

空からは機銃、入り口からは火炎放射、うまのり攻撃があったと聞きました。重傷者は置き去りと、壕の中でどんな思いで過ごされたのかを感じるため、ヘルメットや懐中電灯など全ての灯りを消し、漆黒の闇の中で、みんなで当時の様子をじっと考えてみました。

外に出ると、収穫期を迎えサトウキビ畑が広がり、歌にあるように、ざわざわとどこまでも続いていました。

ちょうど広島島の江田島からも大勢の中学生が修学旅行の平和学習で来ており、沖縄の人達を実状を知り平和な世の中にしないといけないと感じた様でした。



次に、沖繩サミットで新しくなっていた沖繩県平和祈念資料館を見学後、ひめゆり平和祈念館へ。

うめく患者さんを見捨てることもできず大変な思いをされた当時の事をひめゆり部隊の語り部の方々のお話し。薬や衛生材料もほとんど無く、筋肉に潜り込んだまるまると太ったウジをピンセットでつまみ出していた・・・など、本当に辛い事実を知りました。ここは師範学校女子部により建設され、国や県からは支援を受けていないと言うことでした。

午後もぎりぎりまで南部の慰霊の場所へ。市の職員をしながら県内を調査してまわれ、今回、詳しい説明を頂いた真栄里さんが、「魂魄の碑」の前で言葉を詰まらせ、涙ぐんでおられました。

戦争で亡くなられた多くの遺骨を集めて地域住民たちがねんごろに弔っている場所。全国の遺族会が次々訪れて軍の関係だけ分骨しては立派な新しい慰霊塔を作られ、

残された住民の納骨施設のまわりにも、英霊の碑同様に弾丸で囲いを。愛馬の塔までありました。

本土決戦を先延ばしするために、とことん南へ追いつめられ、戦い、そして死な

なければならなかったのは軍関係者とともにふつうの沖繩の人たち。県民の忘れられない過去を感じました。

三日間の勉強会自体は終わりましたが、帰りの飛行機の都合によりもう一日、レンタカーを借りて読谷村に移動。翌日はガマ(洞窟)をニカ所と楚辺通信所を見学しました。一つのガマの皆さんはハワイ帰りのおじいさんがいたため自決を思いとどまって助かり、一つのガマは日本軍の言うとおりに「鬼畜米兵に殺されるよりは・・・」と、親が子を・・・と殺し合ったガマでした。

長年関係者の心の底に閉じこめられ、20年前に見つかったチビチリガマに入ると、まだ鎖骨などの骨や若い女性のものか？おしろいや赤い櫛なども落ちていました。

原爆記念日にドキュメンタリー番組や映画を見るときにしか余り考えることのなかった平和でしたが、前栄里さんの涙や様々な戦争の実状に触れ、沖繩の痛みを深く感じた旅で、大きな宿題をいただいた気がしています。

勉強会を企画して頂いた堺市議の長谷川さんや誘って下さった岩国出身の西宮市議の高橋さん、そしてご案内頂いた宜野湾市役所の市長さんや職員の皆様、そして前栄里さんや地元議員さんに心よりお礼申し上げます。☆参加議員の多くが、岩国基地を知らなのにはショックでしたが、住民投票以来、心配して頂いています。

2月8～9日には、清風クラブの視察で、佐世保市の基地対策について調査にまいりました。

佐世保では項目を絞って基地の返還への熱心な取り組みが行われており、新しい計画も着実に進めておられました。岩国でも、もっと具体的な項目や評価が必要と感じました。

「岩国基地沖合移設後には空母が接岸できますね。」と市の職員さんから言われ、どきっとしました。

そんなことが事実になっては困るのですが。

12月の一般質問

12月定例会では、9月に質問できなかった療育について、昨年末に大変な問題となった児童誘拐殺人事件などを取り上げ、通学時の安全対策について質問しました。

1 子どもの安全について

(1) 集団登下校について

(2) スクールガードリーダーについて

2 療育について

専門職員の育成・配置について

3 ターミナルケアについて

市の構想及び目標について

4 市の行事案内について

(1) 合併へ向けての広報のあり方について

(2) 市民活動を含む掲示板等の活用について

下校中の小学生が連続して誘拐殺人事件が連続して起きるなど、安全とはいえません。

集団登下校やスクールガード事業など、地域で子ども達の安全管理の取組状況について質問。下校時には教職員が見守りを行い、地域とともに安全に努力するとの答弁でした。

また、福祉の窓口に療育に関しての専門家を配置できないかということについては、研修を行うなど窓口職員の資質向上に努力、来年10月から市が実施主体になることから相談業務の充実を図りたいと言うことでした。

ターミナルケアの構想と目標については、市民の不安の大きい末期医療について、医療・福祉・保健関係きかんと連携を図りながら情報提供を行っていく。

合併を前に広報誌やインターネットによる情報提供の充実については、今後、地域版発行やインターネットを活用し、情報の充実させるため市民の意見も取り入れていきたいとのことでした。

次回からは、合併後113名の議員になるため、今までのように約1時間使ったの質問は難しいのが、とても残念です。

3月定例会は、

2月20日から開催され

3月9日に開会します。

(3)

姫野敦子の主な行動メモ

2005年11月～

2006年2月(抄)

- 11月 1日 メディアと子育て講演
- 3日 キッズパワープロジェクト2005
- 4日 災害復旧対策特別委員会
- 6日 民謡秋の祭典
- 8日 連合婦人会文化祭
- 12. 13日 『北京+10』第10回全国シンポジウム
- 15日 いわくにの会 長門峡
- 18日 基地機能移転反対集会
- 21日 家事家計講習会
- 24日 民間空港再開の特別委員会
- 25日 女性ネット21との交流会 いってみんな会
- 26日 生涯学習について講演
- 29日 災害対策調査特別委員会
- 12月 3日 日米協会クリスマスパーティー
- 8日 一般質問
- 10日 プラザ岩商
- 11日 市民活動さぼりと講座ワークショップ
- 16日 総務常任委員会
- 18日 国民文化祭のイベント
- 20日 12月定例会最終日
- 24日 山口エイズボランティア
- 1月 9日 成人式
- 10日 消防出初め式
- 15日 とんど
- 20日 全員協議会
- 21日 大正ロマン参加
- 22日 市民活動カフェ バスのワークショップ
- 24～28日 沖縄 自治体議員勉強会in沖縄
- 29日 住民説明会 市民館小ホール
- 31日 ウッドパワー見学 通津
- 2月 7日 住民投票の発議
- 8～9日 清風クラブの視察(佐世保市)
- 10日 岩国友の会製作品セール
- 11日 「リーダー養成講座」番外編
- 14日 自治会連合会50周年の式典
- 15日 北京JAC世話人会
- 20日 3月定例会スタート 民空調査特別委員会
- 21日 災害対策調査特別委員会
- 25日 山口県人づくり財団報告会
- 26日 手話サークル四つ葉会30周年祝賀会



姫野敦子と

こころネットワーク事務所
〒741-0082 山口県岩国市川西3-3-54
Tel&Fax 0827-41-1320
Eメール himeno@sky.icn-tv.ne.jp
Web <http://www.sky.icn-tv.ne.jp/himeno/>
発行：こころネットワーク

いってみんな会

のご案内

(行ってみて、言ってみんかい?)

議会報告と意見交換の会を開催します。

合併を3月20日に控え、3月定例会が
2月20日から始まり

3月9日に閉会しますので

3月17日(金)19時半から

川西供用会館にて 行いますので
お気軽にお越し下さい。

また、皆様のお近くでも開催したいので
お気軽にご連絡下さい。



<ボランティア情報>

障がい児のサッカーの練習のサポート

(見守り、声かけ、コーチのアシスタント、
兄弟児(幼児)の託児、球拾い等)

日時：2006年3月12日(日)14時～16時

場所：岩国市立岩国西中学校体育館(錦川清流
線・南河内駅そば)

連絡・問い合わせ先：スペシャルオリンピック
ス日本・認定コーチ(サッカー)村上辰夫さん
TEL/FAX:0827-47-2558

e-mail:aw-murakami@nifty.com

☆3月14日(火)朝8時半総合体育館集合で、
県道そばの清掃ボランティアをします。

また、同日18時半から交通局にて
市営バスを使った『岩国耳より地図づくり』を
行います。是非ご参加下さい。

いわくにの会 090-1183-1918まで

<編集後記>

新しい年迎えてあつという間に二ヶ月が過ぎてしま
いました。合併もカウントダウンが残りわずかに。

昨年の水害で、「2月にやっと修理がすんで一階で
休むようになりました。」とおっしゃる方もあり、爪痕
のすさまじさを改めて痛感しています。

住民投票は自分たちの子どもや孫達が安心して
住むために、今何が大切なんだろうか?を考える機
会です。私自身も、議員として沢山の情報をきちんと
お伝えしていなかったことに、反省の毎日です。

政治がみんなのものになるように...と、心から願っ
ています。

この情報紙は、再生紙を使用しています。